

こんな活動です

生徒が地域のお年寄りを訪問する取組で、町で会った時にあいさつのできる関係を目指して取り組んでいる。

芦北	●活動名		●関係する学校名						
	地域の高齢者宅訪問		水俣市立水俣第二中学校						
活動区分	学びによるまちづくりや地域課題解決型学習	地域人材育成	郷土学習						
	地域行事への参加・参画	ボランティア・体験活動	学校周辺環境整備	外部人材を活用した教育プログラム					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	学校運営協議会	有	無	企業・NPO等との連携	有	無
	0人		1人						

●活動の概要・特徴や工夫

始まりは平成25年度、あいさつのできる子供たちにしたいと学校運営協議会で協議した。「地域とつながりが無いからあいさつをしない。つながりを作ろう。」と始まった。協議会委員(民生委員)から独居高齢者宅の訪問を提案された。高齢者の希望を民生委員が担当して、散歩の途中で、玄関で、茶の間でと色々だった。3年生が一部の地域で実施して楽しい時間を過ごすことができた。現在は自治会長と民生委員の協力を得て地域の高齢者家庭を紹介してもらっている。3年生は、総合的な学習の時間に、自身の町内の高齢者宅を訪問する。昨年度から文化祭前にチラシを持って訪問して、話題づくりと文化祭への来校をお願いしてきた。「中学校に来たのは久しぶり!」と多くの高齢者が来てくれた。目的のとおりゴミ分別の時に声をかけるきっかけになりました。」と少しずつつながりができて声を掛け合う関係ができてきた。

●活動の様子



訪問先の案内は自治会長さんです。



玄関に到着しました。「トントン。こんにちは! 二中生です。」



高齢者と茶の間で楽しく話しています。



訪問した高齢者全員に年賀状を書いています。

●地域学校協働活動における効果・成果

(子供)大人との触れ合いが少ない生徒たちにとって、あいさつが難しいのは当然のことである。しかし、この活動は知り合いを増やす良い機会となった。そして、少しずつあいさつを交わしたり声をかけたりすることができるようになった。高齢者は生徒と話すことで、笑顔が出てきて喜んでもらえることがわかった。人と人がつながり合うことは、生徒と高齢者がともに温かい気持ちになり、生活が広がった気持ちになったのではないかと。(地域)他の人と話す機会が少ない高齢者にとって、この出会いは人と触れ合う良い機会となった。高齢者から見て中学生は近寄りやすい存在であったかもしれないが、その優しさに触れて、世代の違う新しい友達ができただけではないか。(学校(教職員))「つながりを作りたい。」と始まった活動で、生徒や高齢者から「ゴミ分別の時、声をかけています。」「自然にあいさつをしています。」との意見が聞かれるなど、狙い通りの成果が得られている。本年度で7年目となり、充実した訪問を目指して、独居高齢者宅から一般の高齢者宅へ広げる他、文化祭と絡めたり年賀状を出したりするなど形を変えて続けている。